



(証券コード：7745 東証2部)

平成18年3月期 中間決算説明会

平成17年11月17日

平成17年4月－平成17年9月

ご注意

本資料に含まれる予想に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後、日本及び世界の経済動向、新たな技術開発の進展により変動することがあります。従って、当社としては、その正確性を保証するものではありません。

Contents



1. 18年3月期中間期の概況
2. 18年3月期中間期の概況（参考）
3. 計測・計量機器事業-1
4. 計測・計量機器事業-2
5. DSP事業の業績について
6. DSP事業について-1
7. DSP事業について-2
8. DSP事業について-3
9. DSP事業について-4
10. DSP事業について-5
11. 医療・健康機器事業-1
12. 医療・健康機器事業-2
13. 家庭用血圧計の生産状況
14. 財務分析（貸借対照表）
15. 財務分析（キャッシュフロー）
16. 設備投資・減価償却費の推移
17. 為替の影響について
18. 18年3月期通期見通し-1
19. 18年3月期通期見通し-2
20. 計測・計量機器事業 見通し-1
21. 計測・計量機器事業 見通し-2
22. 医療・健康機器事業 見通し-1
23. 医療・健康機器事業 見通し-2
24. 補足資料

18年3月期中間期の概況



(単位：百万円)

連結損益	17年3月期中間期実績	18年3月期中間期実績	前年同期比	18年3月期中間期予想	予想比	コメント
売上高	12,343	13,651	+10.6%	13,582	+0.5%	新規事業、既存事業がともに好調
売上原価	7,145	7,706	+7.9%	7,842	-1.7%	
販売費及び一般管理費	4,093	4,659	+13.8%	4,517	+3.1%	ADTにおける買収費用等が発生
営業利益	1,105	1,286	+16.4%	1,222	+5.2%	新規事業の伸長により利益率も向上
経常利益	971	1,168	+20.3%	1,039	+12.4%	
税引き前利益	859	1,157	+34.7%	1,030	+12.3%	前期は固定資産売却損60百万円、退職給付会計基準変更時差異償却45百万円発生
当期純利益	546	717	+31.3%	674	+6.4%	

(注) 18年3月期中間期予想は、5月18日付の「平成17年度3月期決算短信(連結)」にて発表した予想であります(以下同じ)。

18年3月期中間期の概況（参考）



今期から新たに連結対象となったA&D TECHNOLOGY INC.（以下ADT）について、これを控除した場合の実績につきまして、参考としてご紹介します（ADT単独の実績は補足資料参照）。

（単位：百万円）

連結損益	17年3月期中間期実績	18年3月期中間期実績	前年同期比	18年3月期中間期予想	予想比	コメント
売上高	12,343	13,402	+8.6%	13,582	-1.3%	ADTの売上を除いた結果
売上原価	7,145	7,536	+5.5%	7,842	-3.9%	
販売費及び一般管理費	4,093	4,501	+10.0%	4,517	-0.4%	
営業利益	1,105	1,366	+23.6%	1,222	+11.8%	ADTにおける買収費用等の発生の影響を除いた結果増益
経常利益	971	1,249	+28.6%	1,039	+20.2%	
税引き前利益	859	1,237	+44.0%	1,030	+20.1%	
当期純利益	546	797	+46.0%	674	+18.2%	

計測・計量機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		17/3期 上期実績	18/3期 上期実績	前 同 期 比	18/3期 上期予想	予 想 比
計測・計量機器事業	売上高	7,510	8,611	+14.7%	8,390	+2.6%
	売上原価	4,451	4,942	+11.0%	4,894	+1.0%
	販管費	2,447	2,728	+11.5%	2,646	+3.1%
	営業利益	612	941	+53.8%	851	+10.6%

1. 売上

DSP事業の伸長を主因に好調に推移

→前期比14.7%、予想比2.6%の増加

2. 営業利益

原価低減に努めた結果粗利益率は向上したが、MTS社のPTT部門買収に伴う費用発生等により販管費は増加

→前期比53.8%、予想比10.6%の増加

計測・計量機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	1 7 / 3 期 中間期実績	1 8 / 3 期 中間期実績	前 年 同 期 比	1 8 / 3 期 中間期予想	予 想 比
計 測 機 器	750	917	+22.3%	864	+6.1%
計 量 機 器	4,859	5,171	+6.4%	4,921	+5.1%
計測・制御・シミュレ ーションシステム (DSP)	669	1,236	+84.8%	1,349	-8.4%
電 子 ビ ー ム 関 連 ユ ニ ッ ト	1,233	1,287	+4.4%	1,256	+2.5%
売 上 合 計	7,510	8,611	+14.7%	8,390	+2.6%

計測機器

： DSP応用製品が伸びて好調

計量機器

： 景気の回復基調の中堅調に推移

DSP

： 予想より若干未達も前期比では大幅増

電子ビーム関連ユニット

： ほぼ予定通りの着地

DSP事業の業績について



(単位：百万円)

用途種別	16/3期 (実績)		17/3期 (実績)		18/3期 (実績)	
	上期	下期	上期	下期	上期	
新規事業 (従来計上し ていた分野)	自動車関連	486	611	436	858	964
	試験機関連	103	83	119	388	63
	その他	68	120	113	5	209
	小計	657	814	668	1,252	1,236
既存事業への DSP技術用	特殊試験機関連			18	182	186
	計量制御関連			36	60	42
	医療機器					
	小計			55	241	228
合計	657	814	723	1,493	1,464	
売上合計(通期)	1,471		2,216			

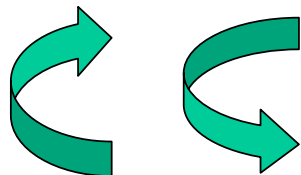
DSPの業績見通しは応用製品も含めた数字であり、それを含めた実績では見通しをオーバー達成(1,464百万円>1,349百万円)

MTS社のエンジンベンチ事業の買収

1. 買収の経緯

A & D（今年4月にアメリカにADTを設立）

北米でのDSP事業インフラ（営業・開発・生産）を短期間にて整備することが可能となり、ADT単独で事業を展開するよりも、北米での事業が迅速かつ有利に展開できると判断



平成17年8月にPowertrain Technology部門（以下PTT部門）をADTが譲り受ける（譲受金額は約17百万ドル）

MTS社（アメリカではエンジンベンチシェアナンバー1）

事業の選択と集中を進めて世界トップの自動車試験装置の機械及び機械式油圧試験装置に注力するために、エンジンベンチ部門の売却を検討

2. 買収の効果

(1) 相乗効果により世界で戦えるエンジンベンチを構築

	強み	弱み
A&D	ハードウェアではADTより進んでおり、開発ツールもMATLAB/Simulinkを使ったオブジェクトモデル化で工数の大幅削減を実現。また、HILS、RPT、軸トルク、音振動解析等、幅広いラインアップを持つ。	自動車開発へのアプリケーションノウハウはADTには及ばず、ADTの実績を組み込んだアプリケーションの提供はこれから。
ADT	ATLASやCAS等、顧客ニーズに合わせたシステム構築が得意で、エンジンベンチではアメリカを主として高い実績を持つ。	ハードウェアが古くコスト高で、ソフトウェア開発に工数がかかっている。また、製品レパトリーもあまり多くない。

(2) 世界進出の加速

旧PTT部門はアメリカをはじめ世界にエンジンベンチを提供しており、アメリカからアジア/ヨーロッパ進出の目処がたった

(3) 開発ニーズの把握と開発スピードが加速

自動車メーカーの開発拠点が集中するアナーバー市に大きな拠点を持つ事により、最先端の技術情報や開発ニーズの把握が可能となり、今後開発スピードが加速

MTS社のエンジンベンチ事業の買収によって、DSP事業の推進に有益なソフトウェア資産を手にする事が出来ました

■ ATLAS

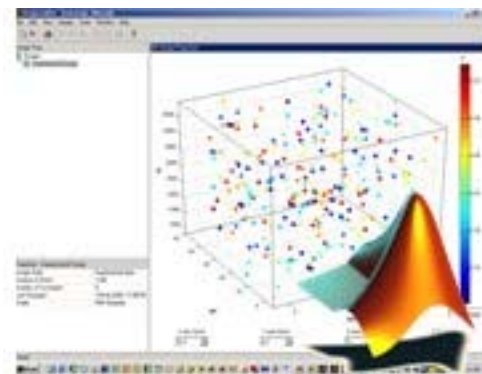
自動車のECU開発における定常適合を実現しており（世界で2社のみ）、現在高速適合の開発を進めている。これと当社が開発する過渡適合と合わせる事で、他社との差別化が可能。

■ CAS

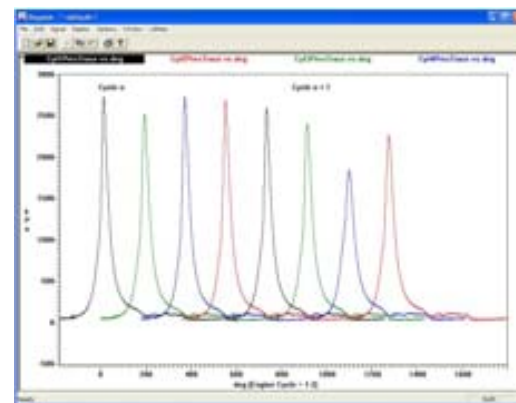
エンジンのシリンダー内での圧力変化等から燃焼解析を行うシステム。



ATLASとの組み合わせる事で燃焼領域探査が可能となる（実現しているのは世界で2社のみ）



DoE Design(実験計画)



エンジン実験棟の増設（平成17年9月完成）

1. 増設の経緯

- ①昨年完成したエンジン実験棟が自動車メーカーから高評価を受け、開発依頼が急増
- ②RRCD（リアルロードシャーシダイナモ）等、新たな開発テーマへの取組みを開始

2. 設置の概要

エンジンベンチ3セット、シャーシダイナモ実験室

3. 利用目的

自動車産業向けのシステム開発・実機検証、及び自動車メーカーとの共同開発

4. 今後の予定

- ①需要の増大により、第3実験棟の計画を来期から開始
- ②ADTと共通のエンジンベンチをADTに設置して、開発の効率化を図る

第2実験棟



RRCD (リアルロードシャーシダイナモ) の開発

■ 開発の目的

①実車と車両モデルの同定を行う。

エンジンベンチ

駆動系ベンチ

ステアリング試験機

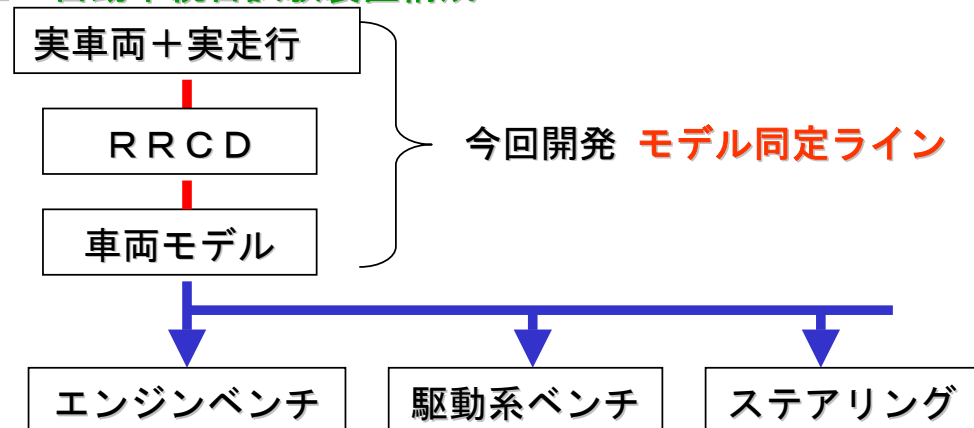
アブソーバ試験機

ブレーキ試験機

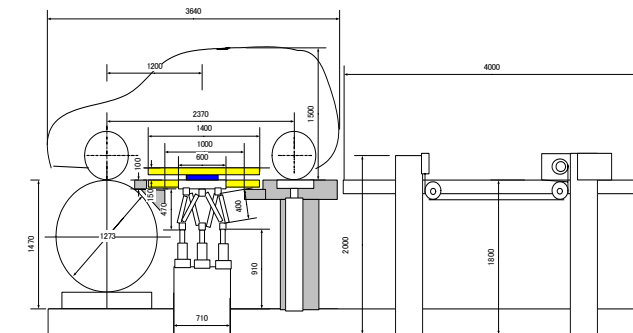
同一モデルで操作

②ドライバビリティの評価を可能とする。

■ 自動車統合試験装置構成



今回開発 モデル同定ライン



モデル供給ライン

医療・健康機器事業 実績－1



(単位：百万円)

セグメント		17/3期 上期実績	18/3期 上期実績	前年 同期比	18/3期 上期予想	予想比
医療・健康機器事業	売上高	4,833	5,040	+4.3%	5,192	-2.9%
	売上原価	2,694	2,764	+2.6%	2,948	-6.2%
	販管費	1,213	1,423	+17.3%	1,395	+2.0%
	営業利益	926	853	-7.9%	848	+0.6%

1. 売上

家庭用血圧計の生産能力が受注に追いつかず、また新製品の立ち上げ遅れも要因

→前期比+4.3%、予想比△2.9%

2. 営業利益

- 家庭用血圧計の自社生産への切り替えが17年3月の完了し、コスト削減効果がフルに寄与

→売上原価率の改善

- 医科向け製品の開発強化を行った結果、販売費が増加

→販管費の大幅増加

医療・健康機器事業 実績－2



(単位：百万円)

製 品 種 別	1 7 / 3 期 中間期実績	1 8 / 3 期 中間期実績	前 年 同 期 比	1 8 / 3 期 中間期予想	予 想 比
医 療 機 器	774	1,190	+53.7%	919	+29.5%
健 康 機 器	4,059	3,849	-5.2%	4,273	-9.9%
売 上 合 計	4,833	5,040	+4.3%	5,192	-2.9%

医 療 機 器：海外向け製品が、アメリカでの医科向け血圧計のユニット供給等を主因に大幅な増加

→前期比+53.7%、予想比+29.5%の増加

健 康 機 器：家庭用血圧計はロシアは引き続き好調だが、生産が追いつかず。また、アメリカ向け新製品の立ち上げ遅れ

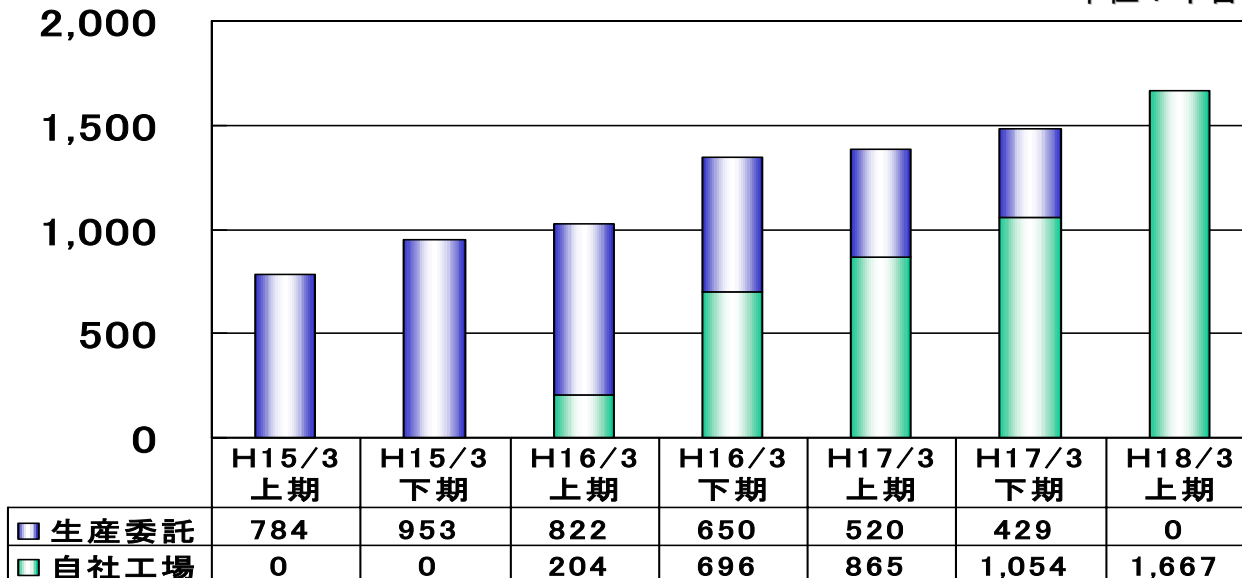
→前期比△5.2%、予想比△9.9%の減少

家庭用血圧計の生産状況



中国における家庭用血圧計の生産状況

単位：千台



中国の生産工場移転について

受注増に対応するために、工場を移転して生産能力を高める予定

増産能力 40%増（この結果、月産総生産能力は40万台以上に）

完了日時 平成18年6月

財務分析（貸借対照表）



■ 貸借対照表分析

（単位：百万円）

連結貸借対照表	17 / 3 期 末	18 / 3 中 間 期	前 期 比	コ メ ン ト
流動資産合計	23,263	24,045	+3.4%	棚卸資産+517、受取手形及び 売掛金+382、現・預金△682
固定資産合計	9,402	10,312	+9.7%	有形固定資産+1,215、無形固 定資産+365、投資その他△671
資産合計	32,665	34,357	+5.2%	
負債合計	20,215	21,847	+8.1%	流動負債+2,462、固定負債 △830
少数株主持分	233	53	-77.3%	研精工業完全子会社化△180
資本合計	12,217	12,457	+2.0%	
負債及び資本合計	32,665	34,357	+5.2%	

財務分析（キャッシュフロー）



■ キャッシュフロー分析

（単位：百万円）

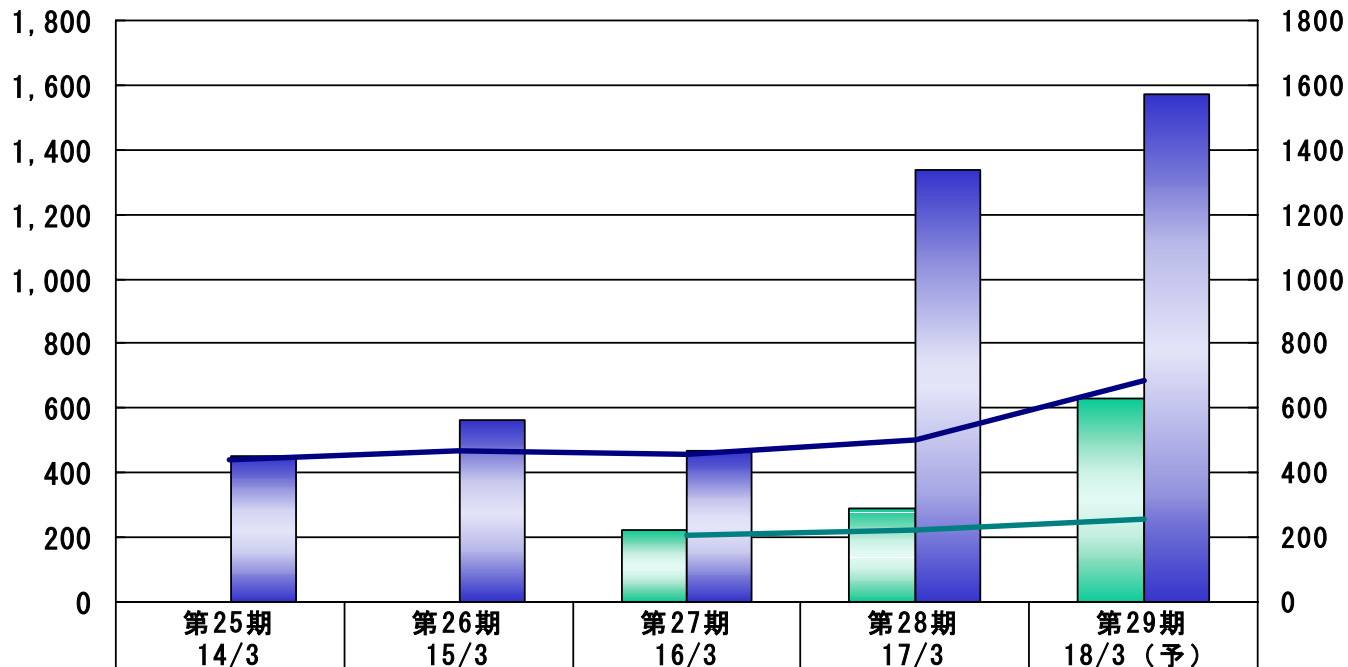
連結キャッシュフロー	17 / 3 中間期	18 / 3 中間期	コメント
営業活動によるCF	829	789	税前利益+1,157、減価償却費+461、仕入債務の増加+372、法人税等支払△760、その他（前渡金中心）△516
投資活動によるCF	△956	△2,674	営業譲受けに伴う支出△1,883、有形固定資産の取得△561、無形固定資産の取得△133
財務活動によるCF	2,323	1,184	短期借入金の増加+1,363、長期借入金の減少△131
現金及び現金同等物の増加額	2,248	△674	
現金及び現金同等物の期末残高	4,344	2,965	17年3月期期末の残高は3,639

設備投資・減価償却費の推移



(単位：百万円)

(単位：百万円)



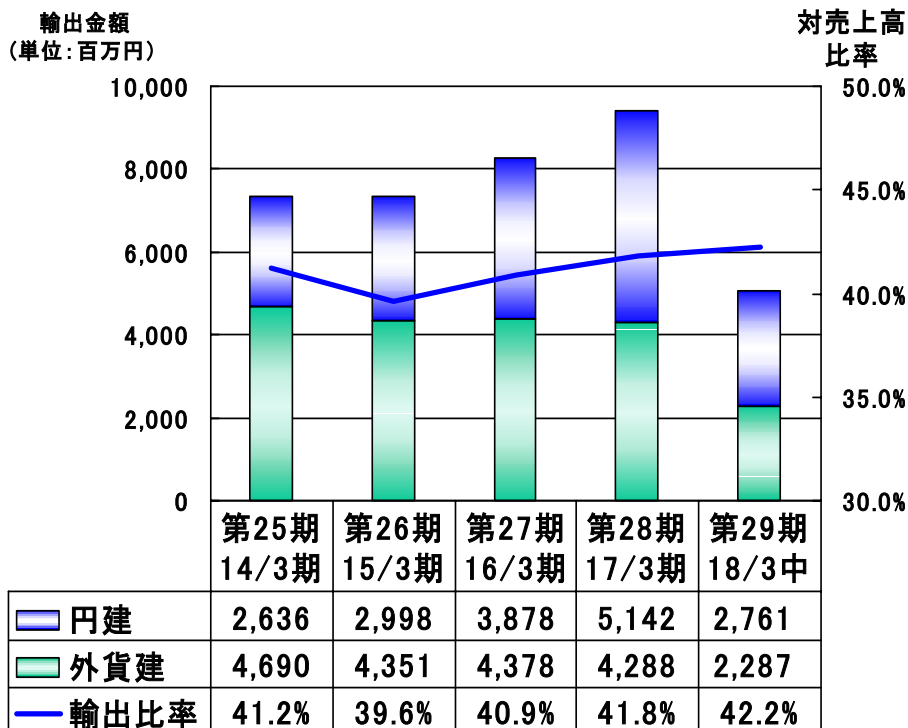
■ 中間期設備投資			224	290	628
■ 通期設備投資	454	561	466	1,335	1,571
— 中間期減価償却費			206	223	254
— 通期減価償却費	440	467	456	502	687

平成18年3月期（中間）の設備投資は、研究・開発スペース拡大のための社屋増設及び第二実験棟の建設等のため359百万円を計上

為替の影響について



輸出の状況



18年3月期中間期の外貨建て取引の状況

通貨 (千単位)

区分		通貨		
		ドル	ユーロ	オーストラリア ドル
フロー	販売	19,598	3,397	1,368
	仕入	25,529	28	1,202
	差額	-5,931	3,369	166
ストック	債権	28,989	1,753	291
	債務	22,982	0	304
	差額	6,007	1,753	-13

※A & D単体での状況です

18年3月期通期見通し－1



(単位：百万円)

連 結 損 益	17年3月期 通期実績	18年3月期 通期見通	前 期 比	コ メ ン ト
売 上 高	25,472	30,094	+18.1%	DSP事業が大幅に伸長
売 上 原 価	14,485	17,576	+21.3%	既存事業における価格競争等を織り込む
販売費及び一般管 理 費	8,309	9,112	+9.7%	開発費等の増加を織り込む
営 業 利 益	2,678	3,406	+27.2%	
経 常 利 益	2,415	3,071	+27.2%	
税 引 き 前 利 益	2,231	3,059	+37.1%	
当 期 純 利 益	1,440	1,882	+30.7%	
1 株 当 た り 利 益 (円)	72.27	90.13	+24.7%	

計測・計量機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	17/3期 (実績)	18/3期		前期比		
		上期実績	下期見通			
計測・計量機器事業	売上高	15,748	8,611	10,676	19,287	+22.5%
	売上原価	8,962	4,942	6,452	11,394	+27.1%
	販管費	4,920	2,728	2,622	5,350	+8.7%
	営業利益	1,867	941	1,602	2,543	+36.2%

1. 売上

DSP事業の大幅な伸長を主因に好調に推移

→前期比22.5%の増加を見込む

2. 売上原価

DSP事業における大口案件について、初めての受注内容であり仕様も複雑な事から、下期は粗利益率を低めに見積もっている事と、既存事業における価格競争の激化を考慮

→売上原価は前期比27.1%の増加を見込む

3. 営業利益

販管費の増加を上回る粗利益増加により大幅に増加

→前期比36.2%の増加を見込む

計測・計量機器事業 見通し-2



(単位：百万円)

製 品 種 別	18/3期 上期実績	18/3期 下期見通	17/3期 下期実績	前 期 比	18/3期 通期見通	前 期 比
計 測 機 器	917	1,083	927	+16.8%	2,000	+19.3%
計 量 機 器	5,171	5,430	4,890	+11.0%	10,600	+8.7%
計測・制御・シミュレーションシステム (DSP)	1,236	2,845	1,251	+127.4%	4,081	+112.6%
電子ビーム関連ユニット	1,287	1,318	1,169	+12.7%	2,605	+8.5%
売 上 合 計	8,611	10,676	8,238	+29.6%	19,287	+22.5%

計測機器	: 下期も好調に推移
計量機器	: 原価の低減と新マーケット（粘度計、水分計等）の開拓を進める
DSP	: 防衛庁案件もあり、達成はほぼ確実な状況
電子ビーム関連ユニット	: 開発を継続的に進めて更なる差別化を図る

医療・健康機器事業 見通しー1



(単位：百万円)

セグメント	17/3期 (実績)	18/3期		前期比		
		上期実績	下期見通			
医療・健康機器事業	売上高	9,724	5,040	5,768	10,807	+11.1%
	売上原価	5,523	2,764	3,419	6,182	+11.9%
	販管費	2,480	1,423	1,380	2,803	+13.0%
	営業利益	1,721	853	969	1,822	+5.9%

1. 売上

家庭用血圧計の受注対応を進め、好調な医科向け製品の更なる拡大を目指す。

2. 営業利益

家庭用血圧計の自社生産によるコスト削減効果はほぼ一巡。ただし、好調な医科向け製品の開発体制の強化に伴い販管費が増加し、営業利益率は若干低下の見通し。

医療・健康機器事業 見通しー2



(単位：百万円)

製品種別	18/3期 上期実績	18/3期 下期見通	17/3期 下期実績	前期比	18/3期 通期見通	前期比
医療機器	1,190	1,171	908	+29.0%	2,362	+40.5%
健康機器	3,849	4,597	3,983	+15.4%	8,446	+5.0%
売上合計	5,040	5,768	4,891	+17.9%	10,807	+11.1%

医療機器：好調が続く中、医科向け血圧計の更なる拡販を図る。

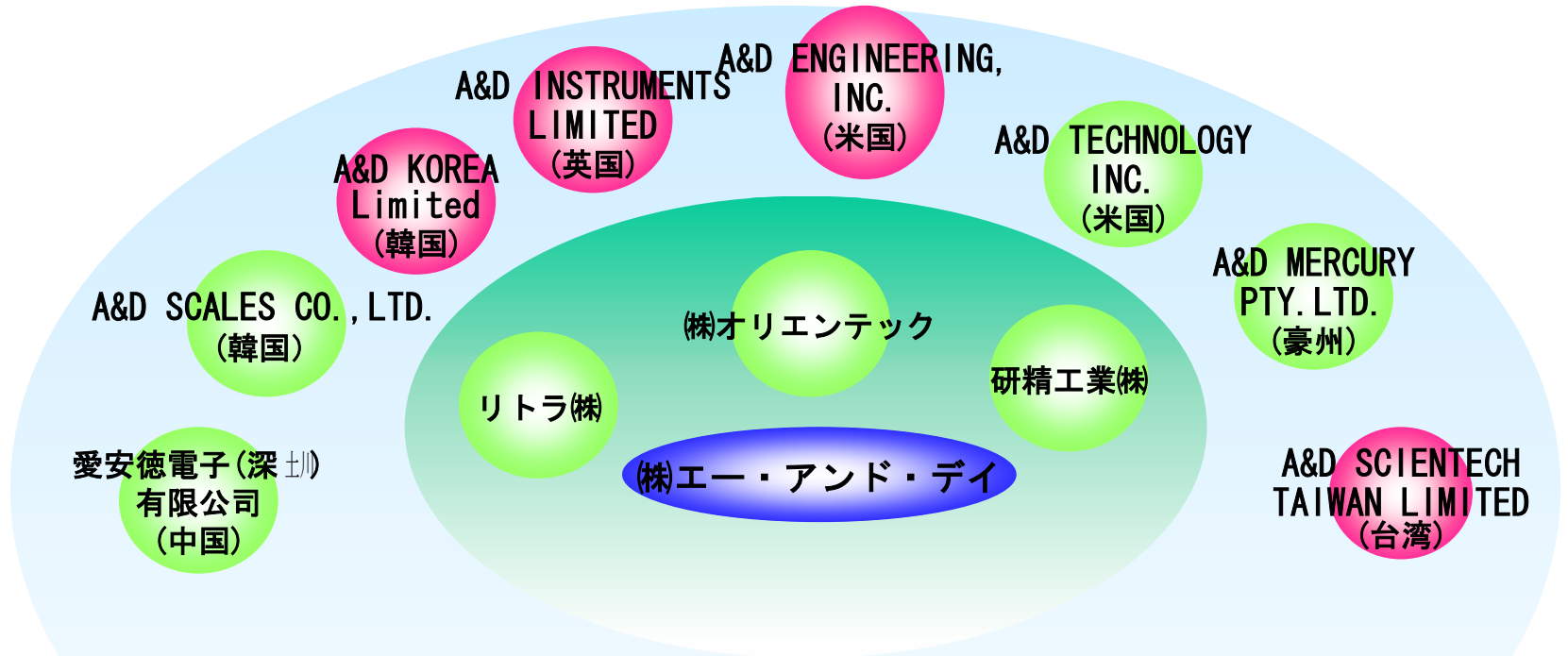
健康機器：家庭用血圧計について、生産能力の増加のための生産体制の見直しを行い、工場移転の計画を進める。また、立ち上げの遅れている新製品の出荷を進める。

補 足 資 料






- 1 グループの概況
- 2 MTS社及びPTT部門の概要
- 3 平成18年3月期ADT単独の決算状況
- 4 開発の状況

グループの概要



A & Dは開発および販売を中心に活動
生産主体は国内外関係会社
海外販売は関係会社経由と直販を併用

-  生産・開発関係会社
-  販売関係会社
-  その他関係会社

MTS社及びPTT部門の概要



1. MTS社 (MTS Systems Corporation)

各種試験装置の開発・製造・販売

- | | |
|-------------|-----------------------|
| (1) 代表者 | Sidney W. Emery, Jr. |
| (2) 所在地 | アメリカ合衆国ミネソタ州エデンプレイリー市 |
| (3) 主な事業の内容 | 各種試験装置の開発、製造及び販売 |
| (4) 売上高 | 367百万ドル (2004年9月期) |
| (5) 資本の額 | 172百万ドル |
| (6) 上場取引所 | NASDAQ |
| (7) 従業員数 | 1,600名 |

2. PTT部門 (Powertrain Technology部門)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| (1) 所在地 | アメリカ合衆国ミシガン州アナーバー市 |
| (2) 主な事業の内容 | 自動車のエンジンベンチの開発、製造及び販売 |
| (3) 売上高 | 24百万ドル (2004年9月期) |
| (4) 資産の額 | 14百万ドル |
| (5) 従業員数 | 70名 |

 今回買収

平成18年3月期ADT単独の決算状況



(単位：百万円)

連 結 損 益	1 8 年 3 月 期 中 間 期 実 績
売 上 高	248
売 上 原 価	170
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	159
営 業 利 益	△80
経 常 利 益	△81
税 引 き 前 利 益	△81
当 期 純 利 益	△81

(注) M T S社のP T T部門の買収に伴い、コンサルティング費用等の発生により、136百万円の費用が発生しております。

開発の状況



社内資源の多くを開発に投入し、
各事業分野で継続して開発を実施。

(平成17年9月末/A & D単体)

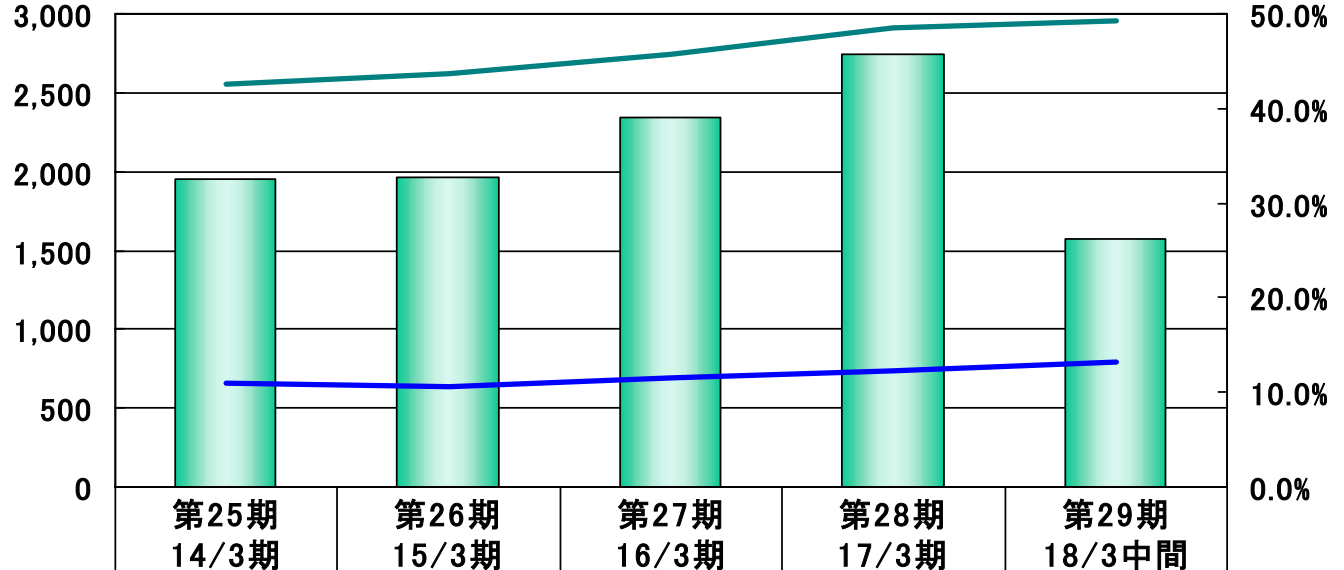
在来事業 160名 (57.8%)

新規事業 117名 (42.2%)

合 計 277名 比率

研究開発費
(単位:百万円)

※A & D単
体での状況



■ 研究開発費	1,951	1,963	2,337	2,741	1,575
— 売上高比率	11.0%	10.6%	11.6%	12.2%	13.2%
— 開発人員比率	42.5%	43.6%	45.8%	48.6%	49.2%

AND

株式
会社 **エー・アンド・ティ**